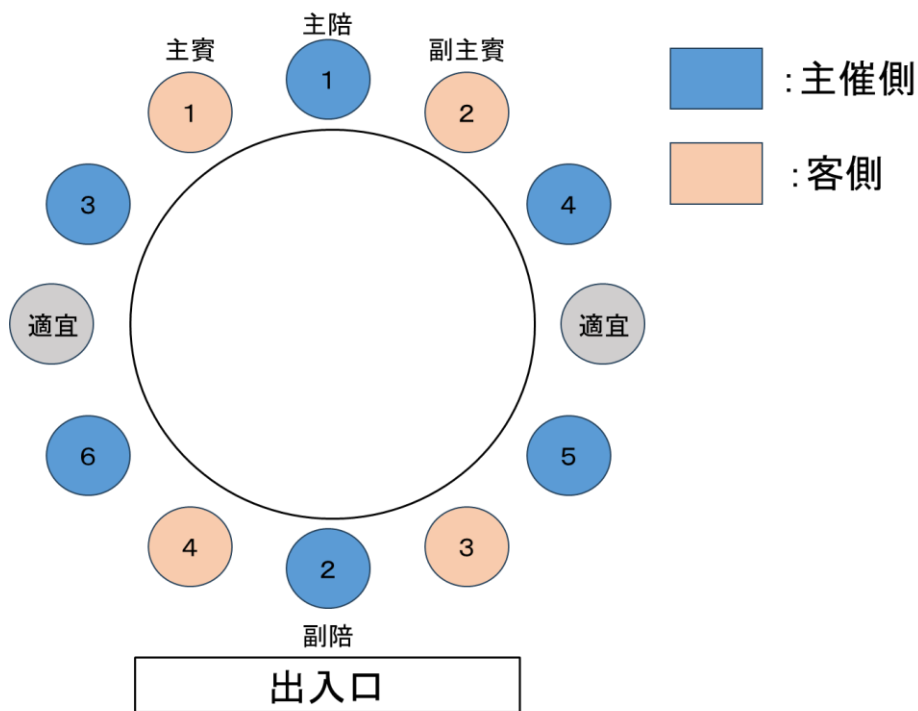


山東省の酒文化（宴席マナー）

山東省での宴席の場では、特有のマナーに基づき進行する場合が多いのが特徴です。基本的なマナーは以下のとおりですので、「豆知識」として知っておくと便利です。

1. 座席

円卓の場合、主催側トップ（主陪）が出入口から一番奥に着席し、向かい側に主催側2番目（副陪）が着席します。右側が上席となるため、主催側トップの右側に客側トップ（主賓）、左側に客側2番目（副主賓）が座り、同様に主催側2番目の右と左にそれぞれ客側3番目と4番目が着席します。



2. 宴席の進み方

- (1) には、まず主催側トップが乾杯の音頭を3回とり、次に主催側2番目が2回、更に主催側3番目が1回、と乾杯を続けていく場合が多いです。
- (2) 上記の乾杯の間には、勝手に酒を飲まないのがマナーなので、注意が必要です。同じく卓上に出ているお茶やジュースなどは自由に口にできます。
- (3) 主催側による乾杯の音頭は一巡した頃から、主催側トップを筆頭に自由交流が始まります。各参加者は、テーブルを一巡し出席者全員と乾杯を行っていくのが一般的です。

- (3) 食事の中では、魚料理がメインとされています。魚料理が出た際には、主催側トップが左右の客に取り分けるか、サービス員（サービス要員）が取り分けるのを待ち、自分から手を出さないのがマナーとなっています。
- (4) 主食（餃子や麺の場合が多い）が提供される頃までには、自由交流を終え席に戻るのが無難です。料理はデザート（フルーツが多い）が最後となります。
- (5) 頃合いを見て、主賓からお礼の挨拶とともに乾杯をします。最後は主催側トップの挨拶と乾杯によりお開きとなります。

3. その他の注意事項

- (1) 円卓を回し料理を取る際には「時計回り」とする。
- (2) 乾杯の音頭を取る場合は、一気飲みすることが望ましい。
- (3) グラスで乾杯する場合は、目下の人がグラスを低めに傾ける。
- (4) 白酒用の乾杯グラスは小さいので一気飲みしやすいが、アルコール度数が50度以上と高いので注意を要する。
- (5) アルコールが苦手な場合は、最初から断り他のドリンクを選ぶこと（飲酒を強要されることはほとんどない）。

以上